

「アナニアとサフィラの事件」

2024年01月12日

ところが、アナニアと言う人は、妻のサフィラと相談して財産を売り、妻も承知のういで、代金の一部を取っておき、その残りを持って来て使徒たちの足もとに置いた。すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金の一部を取っておいたのか。売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。（使徒5：1～5）

原始エルサレム教会に集まった人々は自分の財産を売り払い、使徒の足元に置き、それを分かち合う完全な共有財産制の群れを形成していた。ナザレのイエスをキリストと信じる同じ信仰が心を一つにし、また、主イエスの再臨が近いという緊迫した終末信仰が愛に基づく分かち合いを可能にしたのである。貧しい者はなく、喜びに満ちた教会であった。

ところが、アナニアとサフィラ夫婦は主イエスを信じて、教会に加わり、土地を売って献げようとしたが、二人で話し合っ、代金の一部を取って置き、夫アナニアは残りを使徒たちの足元に置いた。夫婦は、共有制のあり方と主イエスの再臨信仰に疑問を持ち、全てを献げることに躊躇したのではないか。すると、ペトロは夫婦の偽りを見抜き、「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金の一部を取っておいたのか。売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ」と責めた。この言葉を聞いたアナニアはその場で倒れ、息が絶えた。この出来事を耳にした人々は皆、恐れた。若者たちがアナニアの遺体を包み、運び出して葬った。3時間ほどたって、妻のサフィラが、夫の死を知らずに入ってきた。ペトロは彼女に「あなたがたは、あの土地をこの値段で売ったのか。言いなさい」と問うと、彼女は「はい、その値段です」と答えた。ペトロは「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう戸口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう」と言った。すると、彼女はペトロの足元に倒れ、息が絶えた。若者たちは、死んだ彼女を担ぎ出し、夫の側に葬った。教会全体とこれを聞いた人々は皆、非常に恐れた。

何とも恐ろしい出来事である。著者ルカは、偽って献げたアナニア、サフィラ夫婦に対する神の裁きのように書いている。しかし、神が自ら手を下して、命を奪うことはない。教会の献げ物に対する厳格な約束事があり、それを破ったことに対し、アナニアは自責の念に駆られ、即死したのである。妻サフィラの場合も同様で、偽りを指摘され、気が動転し、即死したのである。信仰に基づく篤い愛の共同体とは言え、約束を破った者が即死するほど、厳格さを守る教会は異常である。更に、夫アナニアが息を引き取ったことを、妻サフィラに知らせることなく、葬ったことは認められない。即死するほど、人の心を拘束する共同体はとても承服することはできない。全ての教会が、このような教会であるならば、集まる人々は皆、命が奪われるのではないか。正直であることは勧められるべき倫理であるが、過ちをも受け入れ、諭していくのが、キリストの教会ではないか。